

●防災に関するお知らせ

近年の異常気象により、ことし7月の豪雨をはじめ、8月も大雨・洪水警報が度々発表されました。大雨警報や土砂災害警戒情報が発表されると、町から防災無線でお知らせし、状況に応じて避難に関する情報もお伝えします。これから台風や秋雨前線豪雨が発生しやすくなりますので、災害には十分ご注意ください。

また、今年度中に土砂災害の危険のある場所がわかる地図「土砂災害ハザードマップ」を各戸にお配りする予定ですので、お手元に届いた際は、ご自宅と避難所、避難経路などの確認をお願いします。

◆大雨警報

浸水害のおそれ（1時間雨量 60 ミリ以上の雨）

土砂災害のおそれ（土壌雨量指数が警報基準に達したとき）

※土壌雨量指数とは——降った雨が土壌中にどれだけたまっているのかを見積もり、土砂災害の危険性を示したものです。

◆土砂災害警戒情報

警報発表中に土砂災害の危険性が一層高まった場合に発表

※土砂災害警戒情報とは——鳥取県と鳥取地方気象台が共同で発表する防災情報で、土石流、がけ崩れ、地滑りなどが発生する恐れがあります。



日南町総合防災訓練について

町では、災害発生時の応急対策の検証と、防災意識の高揚を図ることを目的に、関係機関に協力を頂き総合防災訓練を実施します。鳥取県西部地震から10年目を迎える今回は「地震」を想定した訓練を行います。ご理解とご協力をお願いします。

日時 平成22年10月2日(土) 午前9時00分～11時30分

会場 日南町役場庁舎・地域振興センター

併せて、平成22年10月23日(土)～24日(日)の両日、にちなんふる里まつりの会場で防災展示を行います。災害伝言ダイヤルの説明、住宅用火災警報器や消防器具の展示、自衛隊車輛の展示など。多数のご来場をお待ちしています。

フラズフォレストin日南2010
10月3日(日)13:30開演
入場料300円

近隣市町村で活躍している小中学校、社会人のプラスバンドが一堂に集う楽しいコンサートです。今年も10団体が出場。日南中学校吹奏楽部も出場します！

TAO Live

絶賛発売中

11月20日(土) 16:30開演
 ≪全席指定≫ 4,000円

【図書館から】
今月のおはなし会
10月2日(土)午前10時～
10月16日(土)午後3時～

美術館 【大人のためのクレパス画教室】
 10/2(土)13:00～17:00 (マスターコース)
 10/3(日)19:00～17:00 (初参加コース、マスターコース)

【美術館から】
 クレパス誕生85周年
画家たちが描いたクレパス画 名品展
10月17日(日)まで

入場料金 一般 500円、高校生 300円
 中学生以下は無料
 休館日 毎週月曜日、10/12(火)
 (10/11の月曜日は開館)

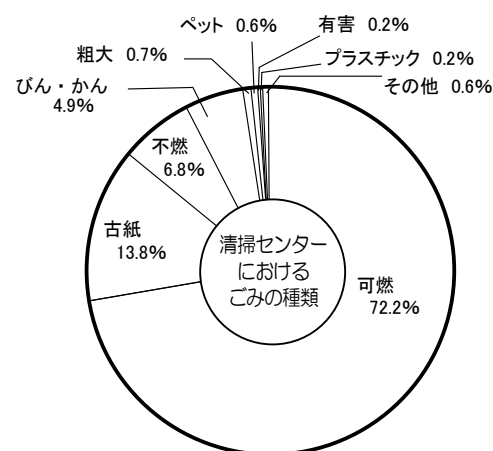
江戸の循環型社会に学ぶ

17世紀には、既に100万人近くの人口になっていた江戸は、循環型社会のお手本とされています。この時代、パリやロンドンなど大都市の多くは、環境問題、ごみ問題に悩まされていました。ヨーロッパの大都市が環境問題に悩まされ続けていた時代に、日本では、世界に類をみないリサイクル社会を創り上げていたのです。江戸時代のシステムが特に優れていたのは、都市全体が徹底したリサイクルシステムとして動いていたということ、そして、ごみ処理を人間社会の範疇のみで行っているのではなく、自然界をも有効に使っていたことでした。紙のリサイクルはもちろんのこと、古着の流通ルートも確立され、排泄物も下肥料として、供給不足が起こるほどだったと言う江戸時代の循環型社会に、私たちが学ぶものは少なくありません。

町のごみ排出状況

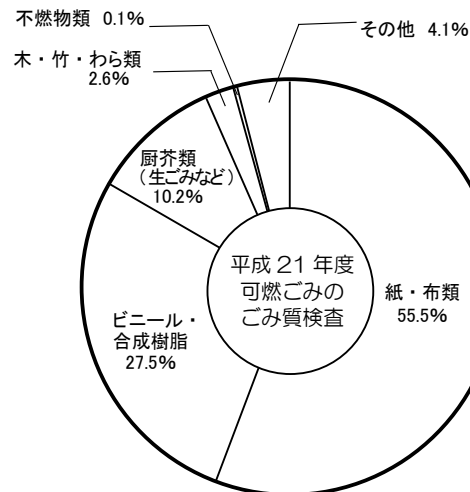
先月号でお知らせしましたように、平成21年度の日南町のごみの排出量は、1400トン、町民一人あたりのごみ排出量は年間240kg、町民一人が一日に排出するごみの量は、約660gです。国民一人あたりのごみ排出量は、一日約1kgと知られていますので、国の平均を大きく下回っています。

これは、清掃センターにおけるごみの種類をグラフ化したものです。



このように72%が可燃ごみとして焼却処分されています。残り28%のごみの中から、古紙、びん・かん、発泡スチロール、ペットボトル、布などが資源としてリサイクルされています。

チロール、ペットボトル、布などが資源として、リサイクルされています。焼却処分される可燃ごみの中には、まだ多くの資源ごみが含まれており、これらの更なる分別が今後の課題となっています。次のグラフは、清掃センターが実施した「可燃ごみのごみ質検査」の結果に基づき作成したものです。



可燃ごみの内、実に83%が「紙・布類」と「ビニール・合成樹脂類」で占めています。これらのほとんどは、資源としてリサイクルできるものばかりです。その重量は、実に約850トンです。

循環型社会の形成

江戸時代において、リユース・リサイクルが有効的に実施されていた背景には、根元的な物不足があります。そして、生産力が低いために、資源を有効に使わなければならないという理由もありました。現代の私たちは、多くを輸入に頼り、大量生産・大量消費の生活を行っています。そんな豊かな時代に育った私たちが、江戸時代の生活に戻ることなど、とてもできません。しかしながら、近年の異常気象や地球温暖化の傾向は、地球が発する警笛のような気がしてなりません。地球にやさしい循環というシステムの構築は、現代社会に生きる私たちの重要なテーマです。町では、循環型社会の形成に向け、現在、①生ごみの資源化、②布類の分別収集と資源化、③廃食油の資源化に取り組んでいます。

買い物時にマイバッグを持参される方も増えてきましたが、まだ十分に浸透していません。可燃ごみの約3割が、「ビニール・合成樹脂等」という結果が、それを物語っています。循環型社会の形成に向けて、まず、出来ることから始めてみませんか。